

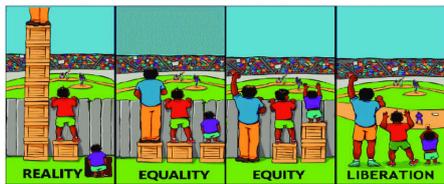


2024年度保健師活動交流集会を開催しました

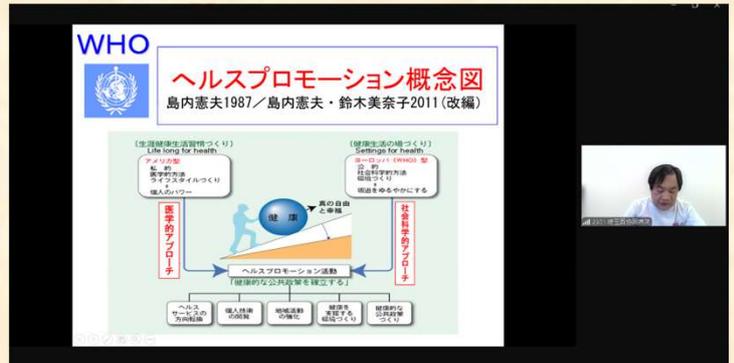
11月30日(土) 保健師活動交流集会を開催し、11事業所から29名の保健師が参加しました。

学習講演は、埼玉西協同病院 副院長の福庭勲医師より『国際HPHネットワークの潮流と第30回国際HPHカンファレンス-これからの医療生協さいたまに求められるものは-』をテーマにご講演いただきました。

ヘルスプロモーションやSDHの基礎知識や海外での事例、国際HPHカンファレンスでの医療生協さいたまの活躍について話されました。中でも特に印象的だったのが、平等や公正についてのイラストに『現実』というイラストが加わったことでした。参加者からも「イラストが衝撃だった。何もしないと格差は改善されない」、どこかで支援が必要と感じた」との意見がありました。



学習講演



《2年目保健師の感想》

ヘルスプロモーションの活動は病棟にいると中々取り組めない課題であると感じていましたが、患者が自分の健康状態を知り今後生活する中で何に気がつけたらいいのか考えるきっかけを作ったり、興味をもったりできるようにすることもヘルスプロモーションの一つだと感じた。

活動報告



さいごに

私たちがテレビやニュース、新聞で見ているのはほんの一部
私たちができる支援は少ないかもしれない
見ているしか出来ないこともある

見捨てないよ、忘れていないよという気持ちが大変

民医連は現地支援と能登地方訪問の継続を

- 『石川支援を通して-輪島の現状とこれから-』
ふれあい生協病院 北2病棟看護科 青沼春佳
- 『医療生協さいたまらしい地域包括ケアシステム
-生活と人生に寄り添う切れ目のない医療・介護体系と方略づくりを目指して-』
さいわい診療所 碓井絵美
- 『健診フレイル・ロコモ問診を活用しての
-低栄養予防の取り組み-』
大井協同診療所 河上亮子
- 『地域におけるA訪問看護ステーションの役割
-地域分析と財務分析を通して-』
ケアステーションうらしん訪問看護 志村水輝

交流集会の学びをどのように生かそうと思えますか？

退院支援会議を
自宅で行ってみたい。
2年目

地域を知ることで、患者・地域問題が見えてきます。地域を分析して、目の前の患者だけでなく地域の人にも働きかけられるようになりたいです。日々の業務の中にあるジレンマなどに向き合って行きたいです。7年目

健康問題は個人の問題だけではなく、環境や社会問題など様々なことが影響しているため、包括的に捉えていきたいと感じた。また震災からの復興には長期間かかり生活や仕事、健康など多くの影響があると分かった。忘れずに長期的に支援をしていくことが大切だと実感した。自身が実際に被災した経験を活かして、訪問支援してみたいと感じた。3年目

普段の業務では保健師であることを忘れてしまうことも多いが、保健師であることを活かし地域の健康づくりにおいて力を発揮していきたいと思った。もっと地域の人と関わってみたい。3年目